

うめきた2期地区等スマートシティ実証事業

■都市課題

- ・市民のQOL向上や企業活動活発化による「関わり続けたい」まちづくり
- ・複雑な官民連携整備の都市公園の持続的な管理・運営の実現

■解決方策

AIカメラや3Dモデル等のデジタル技術の活用により、安心・安全な環境の整備と効率的・効果的な管理・運営の実現

■KPI

行動検知の精度	目標値 90%
快適性・安全性満足度	目標値10ポイント改善
管理者ヒアリング効率化寄与	
	目標値 平均4点

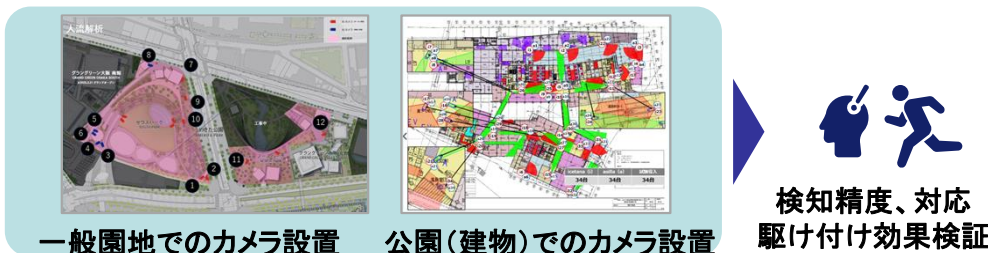
■実証実験の概要・目的

目的 各種迷惑行為の防止・即時対応や都市公園としてのインフラ保全により安心安全な環境を効率的に提供
実験概要 AIカメラ画像解析・3Dモデルの技術活用により、公園内等の運営管理や資産状況把握管理における具体業務活用の検証

■実証実験の内容

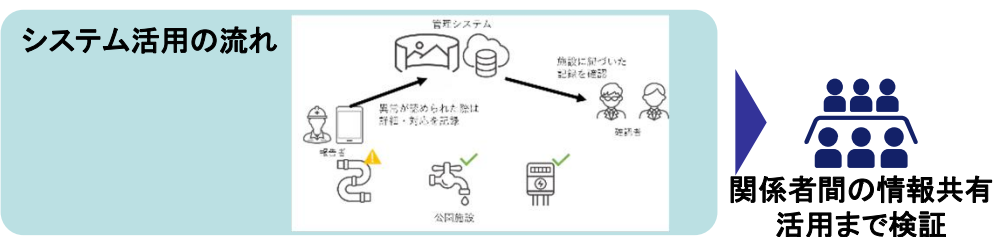
①AIカメラ活用による公園内等管理の効率化

うめきた公園(計12地点)および公園建物・民地(計334台)に設置したAIカメラを通じて映像を取得しAI画像を解析し、人数カウントや行動検知の精度実証、および対応等への効果アンケートを実施



②3Dモデル活用による官民連携公園の可視化

埋設管データベース(属性情報)作成と3Dモデル開発を行い、システムと実環境の情報一致の検証、日常点検での活用による効果検証、不具合発生仮想シナリオ実施で、官民関係者間での情報共有の効果検証、を実施



■実証実験で得られた成果・知見

①AIカメラ活用による公園内等管理の効率化

行動検知精度結果とアンケートから検知に関する効果は高い一方検知後対応につなげるには危険行為の検知精度向上(暴力行為の誤認通知の抑制)と自動注意喚起が必要



寝転び
(暴力行為誤認)

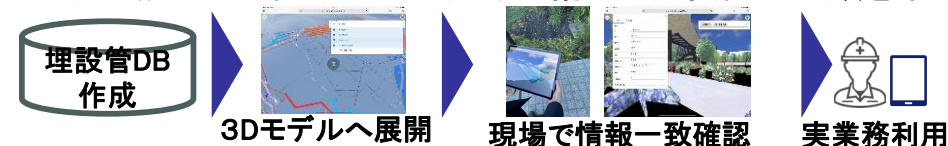


エスカレータ逆走
(自動通知要)

検知精度の向上が必要な事象、駆け付け前に自動注意喚起が必要な事象あり

②3Dモデル活用による官民連携公園の可視化(埋設管)

日常点検での活用、不具合発生時対応および関係者間情報共有で幅広く効果あり。またデータ整備とモデル開発の手順を確立



■今後の予定

安心安全な環境整備に向けて、今後取り組む実証実験；

- ・行動検知からの自動注意喚起
- ・行動の“予兆”検知への拡大
- ・3Dモデル活用を電気設備へとメンテナンス活用範囲を拡大し管理負荷軽減と情報共有スピード、管理品質向上を検証